



年頭のご挨拶

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

市民の皆様におかれましては、新たな希望と抱負を胸に、清々しい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、市議会の活動に対しまして深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、台風15号と19号が相次いで上陸するなど、各地に甚大な被害が生じました。犠牲となられましたかたがたに深く哀悼の意を表するとともに、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。近年、日本各地で自然災害が多発しております。市議会といたしましても危機感を持って、災害に強いまちづくりの推進に、引き続き取り組んでまいります。

現在、全国に及んでいる少子高齢化と人口減少により、多くの基礎自治体がさまざまな課題に直面しております。こうした状況に対応していくためには、市民や地域の力が最大限に発揮され、暮らしやすい、元気なまちにすることが、ますます必要になってまいります。大和市では、高齢化のさらなる進展を見据えた取り組みや、積極的な少子化対策など、他の自治体から注目されるさまざまな施策が展開されております。今後も市民の皆様のごさまざまなご意見を市政に反映させ、住んでいて良かったと思えるまちにするため、市議会は全力を尽くしてまいります。

市制施行60周年の記念すべき年となった昨年は、未来への飛躍につながる数々の記念事業が開催されました。大和市が輝かしい発展を遂げ、こうした節目を迎えることができましたことに、大きな喜びを感じております。

本市にとって最重要課題のひとつである基地問題は、空母艦載機の移駐が完了し、激しい騒音は減少している状況でございます。しかしながら、今後の厚木基地の運用などについては具体的に示されていないことから、引き続き注視してまいります。

市議会は、二元代表制の一翼を担うものとして、地方自治を推進するとともに、住みよい大和市をつくるために、全議員が一丸となり、より一層信頼され、開かれた議会となるよう今後も努力を重ねてまいります。

市民の皆様におかれましては、どうか本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。

「令和」として初めてのお正月、市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、本市政に多大なるご理解、ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、市制60周年を迎えた記念すべき年であるとともに、元号も「令和」へ変わるなど、大きな節目となりました。また、私自身も多くの皆様のご支持をいただき、市長として4期目をスタートした年でもありました。

また、昨年は特に台風などによる風水害が強く印象に残った一年でもありました。本市は、南林間六丁目防災機能を備えた「やまと防災パーク」を整備しました。芝生広場や防災対応型複合遊具、大型防災備蓄倉庫などに加え、市内最大の雨水地下貯留施設も設置したことで、昨年10月の台風19号では周辺の浸水を防ぐなど、早速その効果を発揮しました。

また、誰でもかかわる可能性のある認知症は大きな課題であり、昨年さまざまな事業を実施してきました。その中でも昨年4月の市立病院脳神経内科における認知症外来の開始、昨年8月の認知症キッズサポーター養成講座の開催など、新たな取り組みも始めました。また本年1月からは、認知症の総合相談窓口「認知症灯台」を開設し、認知症支援の入口を明確にするなど、増加する認知症のかたやそのご家族のかたが安心して暮らしていけるよう、より一層支援してまいります。

さらに、近年社会問題として認識されるようになった、いわゆる「ひきこもり」について、本市ではより温かみのある「こもりびと」という呼称を用い、昨年10月から専用窓口を設置しました。悩みの相談、適切な制度の案内、相談機関への取り次ぎなど、相談者に寄り添った支援を実施しています。

最後に、「健康都市やまと」にふさわしい市民の学びの場として、「健康都市大学」が昨年4月にスタートしました。特に「市民でつくる健康学部」では、自身が持つ知識、経験を基に、市民自らが講師となることで、市民どうしの学び合いや交流、新たな居場所として連日にぎわいを見せています。

本年も、これまで以上に健康都市の実現に向け、着実に前進できるよう、スピード感を持って全力で取り組んでまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

大和市議会議員 平田 純治

大和市長 大木 哲